

今年も7月3日(金) 関東同窓会総会が開催された。

一大地震は対岸の火事ではないー(講演)

司会は幹事期、87期の柿沼佳子さん。まず関東同窓会の清水汪会長(59期)より開会の挨拶があり、その後本年四月に静高校長に赴任された浅羽浩氏から母校の現況などをふくめ挨拶をいただきました。その中で、印高新聞の現況についての興味深い考察があり、「今月で313号となる印高新聞は、創刊以来六十三年の歴史のある学生新聞で、昭和三十年代、四十年代は学生運動の盛り上がりを反映した内容となっていたが現在はイベントの紹介などが主になっている。というものの社会の動きに対する

同窓会総会がKKRホテル東京で盛大に行われました。来賓として、母校校長浅羽浩氏、本部同窓会会長荻野覚氏(71期)、本部同窓会事務局長三浦俊一氏(89期)、中部支部部長の本告(もとおり)光男氏(59期)の各氏がおいでになり、159名が一堂に会しての総会となりました。

司会は幹事期、87期の柿沼佳子さん。まず関東同窓会の清水汪会長(59期)より開会の挨拶があり、その後本年四月に静高校長に赴任された浅羽浩氏から母校の現況などをふくめ挨拶をいただきました。その後本年四月に静高校長に赴任された浅羽浩氏から母校の現況などをふくめ挨拶をいただきました。その後本年四月に静高校長に赴任された浅羽浩氏から母校の現況などをふくめ挨拶をいただきました。その後本年四月に静高校長に赴任された浅羽浩氏から母校の現況などをふくめ挨拶をいただきました。

関心の深さをうかがわせる記事が多く意識の高さを感じさせるものになつていて」とのことでした。また、本部同窓会荻野会長から野球部関連で、近年甲子園出場が減っているため野球部後援会への寄付金も激減しており、後援会への新規入会や寄付応募をお願いしたいとのお話をされました。

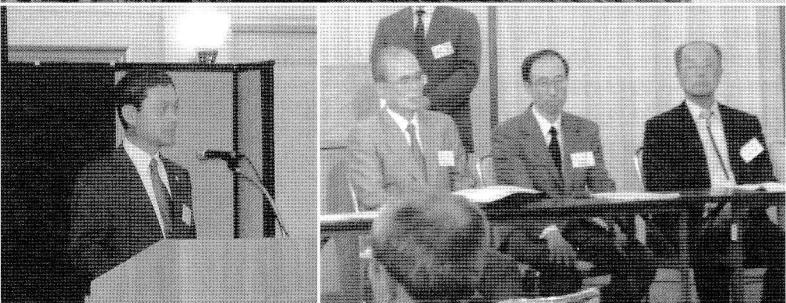
第35回 関東同窓会のご報告 87期 石川嘉和

静中・静高関東同窓会
会報 第68号
平成21年12月30日発行
編集人 村松貴彦(77期)

来賓の挨拶に続き、野方副会長を議長として総会の議事が執り行われ、平成二十年度事業報告・会計報告、平成二十一年度事業計画・予算案、平成二十年度監査報告が承認されました。



総会の後、(東京大学生産研教授)87期の小長井一男氏に「大地震は対岸の火事ではない—四川と静岡の類似点を探るー」と題して講演をしていただきました。真剣な講演のあとは気分を変えたまま、懇親会に移り、おなじみの静岡から取り寄せた黒はんぺん・わさび漬をつまみながら、ひさしぶりに会った旧友と、あるいは同じ学年で、ユーモアを交えながら専門的な難しい内容をわかりやすく語る小長井教授の話に会場の同窓生も真剣に聞き入っていました。静岡市の具体的な地名を出して、パキ



写真上・関東支部同窓会役員、右から清水会長、児島、久我、野方副会長、監事役員
右下・お客様は左から静岡からの荻野同窓会会長、三浦事務局長、そして本告中部支部長
左下・今春から静高校長に赴任した浅羽浩氏

懇親会の会場では、静岡の岡部で、校歌を気持ちよく歌い上げ、児島副会長の発声による三本締めで、名残りを惜しみながらお開きとなりました。

講演要旨

大地震は対岸の

火事ではない

四川と静岡の類似点を探る

小長井 一男 (87期)

静岡の背後に聳える赤石山脈は、カシミールで見る地形と酷似している。糸魚川・静岡構造線と中央構造線の2つの大断層群に挟まれて聳え立つ山々、天竜川のようにいつたん北に向かって流れ大きく屈曲して南に向かう川筋などもそっくり。宝永四年(1707年)の地震で崩壊したといわれている大谷崩の白いむき出しの斜面は、カシミール地震で現れた白い斜面を髪髪とさせる。大谷崩から南に向かって流れる安倍川には崩壊地から

の土砂が大量に堆積し、その結果、下流部で南に細長く伸びる

賤機山の尾根の西、安倍川河川

敷のほうが、東の麻機低地に比べ50m程高くなっている。

静岡の洪水の要因

小長井氏プロフィール

東京大学卒業後、長岡技術科学大学、米ヒューストン大学を歴任し現在東京大学生産技術研究所教授。専門分野は地震後の復興戦略・構造物の耐震設計・地震時の地盤変形など。氏は大地震が起こるととにかく現地に足を踏み入れる現場主義で、例えば2007年7月16日に発生した新潟県中越沖地震時にもすぐに現地に入り7月18日にはNHK・TVの「クローズアップ現代」に専門家として招かれ地震についての説明をされました。

安倍川に運ばれた土砂は麻機低地より50mも高い河床を形成したのみならず、静岡平野に達したところでさらに扇状地状の

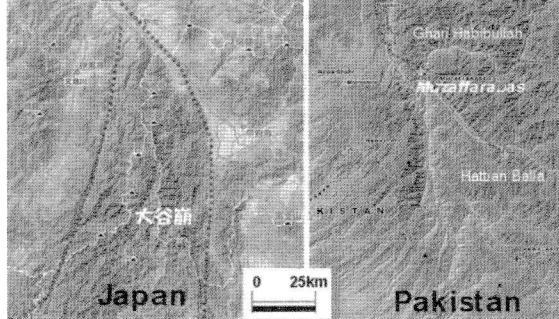
「高松から大谷の町へかけて被害の最もひどい区域は通行止めで公務以外の見物人の通行を止めていた。救護隊の屯所(とんしょ)なども出来て白衣の天使や警官が往来し何となく物々しい気分が漂っていた。」

国土地理院が発行する治水地

形分類図には静岡平野に大きく広がる安倍川の扇状地が等高線で明確に示されている。旧河川は、安倍川の伏流水が扇状地末端近くから湧き上がっていた証左である。昭和十年(1935年)七月十一日の静岡地震の被害はこの扇状地末端部、あるいは駿河湾に沿う砂丘背面の高松、西大谷、東大谷、池田、国吉田で甚大であり、数字ではこれら

の地域での全壊家屋の比率を示している。寺田寅彦の指摘のように帶状に被害が分布しているのが分かる。

講演者・小長井氏、話題が身近にある
だけに恐ろしい



類似した2つの地形
左: 静岡の北に聳える赤石山脈、右: パキスタン・カシミール地方

広がりを見せていて、そして、安倍川がその最も高い所を流れている。こうした地形の特徴をあぶりだすように、昭和49年の七夕洪水では、麻機から巴川流域の低地に大量の水が滞留した。

静岡の地震被害の要因

扇状地末端の低地は、昭和十一年の静岡直下地震でも大きな被害を受けた。現地に足を踏み入れた寺田寅彦は次のようにその状況を記述している。

「高松から大谷の町へかけて被害の最もひどい区域は通行止めで公務以外の見物人の通行を止めていた。救護隊の屯所(とんしょ)なども出来て白衣の天使や警官が往来し何となく物々しい気分が漂っていた。」

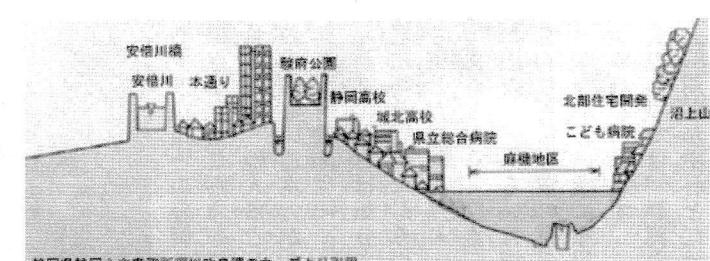
国土地理院が発行する治水地

形分類図には静岡平野に大きく広がる安倍川の扇状地が等高線で明確に示されている。旧河川

は、安倍川の伏流水が扇状地末端近くから湧き上がっていた証左である。昭和十年(1935年)七月十一日の静岡地震の被

害はこの扇状地末端部、あるいは駿河湾に沿う砂丘背面の高松、西大谷、東大谷、池田、国吉田で甚大であり、数字ではこれら

の地域での全壊家屋の比率を示している。寺田寅彦の指摘のように帶状に被害が分布しているのが分かる。



安倍川が最も高い所を流れている

赤石山脈を挟む二つの大構造線(断層群:糸魚川・静岡構造線と中央構造線)がまとまって動いたことは過去に確認されていないので、私たちの関心はつい想定東海地震、東南海地震などに向きがちである。だから中國四川省の地震で過去に大地震の発生が知られていなかった280kmにもおよぶ断層が動いたことは大きなショックであった。糸

魚川・静岡構造線(地上部)はこのような大規模な内陸の地震断層による地震の性格と、もたらした災禍の実態を調査するため文部科学省の支援を受け四川地震の災害調査班が結成されたが、中国では外国人の測量行為を大きく制約する法律があり、また関連する省庁も多岐にわたり調査の調整は大変であった。そして心配していたとおり、地震で大きな被害を受けた北川の街は、地震の四ヵ月後の豪雨で発生した土石流で10mを大きく越える厚さの土石で埋もれてしまう。このような地震後も継続する課題は、データの開示、其有、そして経験の伝承の重要性を日中双方の関係者に強く認識させることになった。

防災を念頭に置いた地形、地盤情報の共有、開示の動きは世界に先駆けて日本でようやく本格化している。こうした活動に深く関わっていく中で、静岡に生まれ育った体験が大きくなると告白すれば、過去の文献に地震被害の事例を渉猟する中で、もう少しはじめに高校の古文を勉強していれば、と悔やまれることもあるのである。

(注) 講演は写真、図などを豊富に使っていたが紙面上割愛しました。

特別寄稿

長年にわたり関東同窓会会長を勤められ、いちばん同窓生の人となりをご存知の上杉さんに、気楽に執筆していただきました。

思い出に励まされて



60期 上杉 重吉

昭和十五年

静岡大火の直後、静中に入学、空襲被災

の二十年に卒業し、旧制静高を経て名古屋大学に入り、上京までの三年間、まだ焼け野原が目立つ名古屋だったが、色々といがけないことがあった。

静中で地歴を学び、郷土研究部で登呂（無名のとき）遺跡などの発掘を指導された下野和夫先生（戦後抑留されたシベリアで逝去）の夫人、由紀子さんと娘の洋子さんが在住の名古屋西区のお宅へおじやました。近年、先生も靖国神社に祀られ、兄二人が比島で戦死した小生は一緒に参拝できるようになつた。

大先輩との出会い、思い出

学生運動は文学部と理学部を中心で、大学当局と種々交渉に当たつたが、偶然勝沼精藏学長と懇談する機会を得た。興津の

坐漁荘で暮らしていた元老、西園寺公望の主治医も務めておられた学長は、静中（現静高）の先輩（19回・明治三十七年卒）で、時々会おうと言われた。

また、国文学の松村博司助教

授は島田市出身で静中（42期、昭和二年卒）旧静高（5回文丙・昭和五年卒）の先輩、屢々研究室へ呼ばれて話を伺つた。先生は三十三年五月、四十九歳の時

院賞を受賞。

なお仏文学の新村猛教授の父君は、周知のように京都大学文

学部教授で「広辞苑」編者の新村出博士。静中（7回・明治二十五年卒）の大先輩。

講談社に入社し、「幼年クラブ」「なかよし」など児童雑誌編集のあと昭和三十八年誕生の辞典出版部長を任命された際、碩学の新村博士に直接依頼したが、ご病気のため叶わず残念の極みだった。

入学してすぐ「名古屋大学新聞」編集部に入部したが、一年

生は専ら広告採り。初の夏休みの六月末も法学部の下山定彦兄（学習院卒）と二人で広小路や栄の商店を歩き廻った。そして

東海道線で一緒にと話し合つていたところ、その前日、都合で

一日遅れる、お先にどうぞとの連絡が……。五日の夕方、下山先輩（19回・明治三十七年卒）の

日常磐線北千住駅近くで轢死体として発見されたと報道され、全く驚いた次第。

一週間後上京し、大田区上池上の下山邸を訪れた。連日の家宅捜査も終つていて総裁夫人と下山兄から「長男定彦が初の夏休み、名古屋からの帰京を楽し

く待つていたのに、一日違いで：「父は大正八年に卒業（34回）の静岡中学では一年下の弟、常夫さんと野球部で一緒に活躍、きっと静中卒業生と会いたかったと思う……」等々の話を伺つた。

定彦兄も名大卒業後、国鉄に入社し、初め名古屋駅で切符切りなど、後年は鉄道局局長を勤めたのち、ホテルアソシア静岡の社長となつた。

平成の時代に入つて、定年退職した小生は、野間省一・鈴木与平両氏（ともに静中44回）の伝記編纂の協力を講談社と鈴木から頼まれて、取材・編集等で毎月のように静岡へ。下山兄や多数の先輩・同窓生などと楽しむ懇談の時を過ごしたことなどを、よく思い出しているこのごろである。

「江の島会」に参加して

90期 加納 美智子

思いました。そして皆さんからエネルギーをいただいたことをうれしく思います。

今回は例年に比べて参加者がちょっと淋しいのが気になりました。次回の「江の島会」では常連の方々ばかりでなく、近県にお住まいの方々はもちろん、それにもまして100期以降の若い皆さんにお会いできれば幸いで

いましたが、今年は残暑を避けて十月に変わりました。参加さ

れた同窓生は二十七名でした。

静岡から母校副校長の重松修司先生、同窓会長の荻野覚さん、

副会長の蔭山昌弘さんが参加してください、後輩たちの勉強ぶりや運動部の活躍ぶりのお話をいただきました。

野球部のことではちょっと先生方の表情が冴えませんで

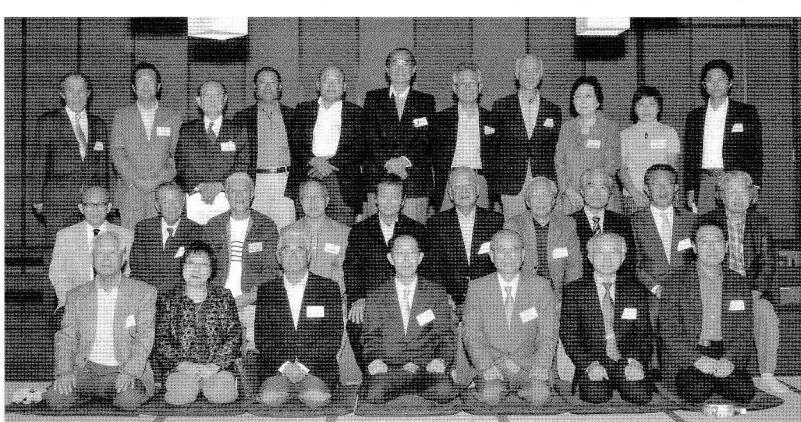
したが……特に荻野同窓会長から、野球部後援会財政の窮状が報告され、皆さんに募金の協力を訴えていたのがと

ても身にしみました。

私は、この「江の島会」には三度目の参加になりますが、先輩後輩、同窓とはいえ、初対面の方が多く、緊張しまし

たが、皆さん自然と話の輪に

お誘いください、学生時代を懐かしく語り合うことができました。それに、それぞれいろいろな分野で活躍していらっしゃるお話は、私にはとても新鮮で、新しい世界を知った



関東66期

第一十三回名所散策会

京浜四大本山寺めぐり

第二弾

馬渕 逸明

快晴に恵まれた平成二十一年九月十一日(金)、66期一行十八名、東急池上線「池上駅」十時半集合、日蓮宗大本山「池上本門寺」へ向かった。京浜地区には四つの大本山の寺、芝増上寺(浄土宗)、池上本門寺(日蓮宗)、川崎平間寺(川崎大師・真言宗)、鶴見総持寺(曹洞宗)があり、今回の参詣は、去る六月二十三日の増上寺に続いてのもの。これらの大寺は、国道一号線のほぼ一直線に位置しており、何れも各宗派を代表する大寺。

お寺の特別な計らいで、我々一行のために大堂(祖師堂)において同期会と我々一同の弥栄祈願のための読経ならびに野坂執事長の宗派を超えた蘊蓄のある法話を頂戴した。その後、案内と説明役の僧の先導により加藤清正の供養塔や、紀州徳川家をはじめ、幸田露伴、大野伴睦、力道山など有名人の眠る墓所や、和様、唐様の折衷様式の建築物として有名な国の重要文化財「五重塔」、日蓮上人直筆の書や宝殿」、法要や集会、コンサート

トを行う近代式仏堂建築の「本殿」内など説明を受けながら見学した。靈宝殿は通常は日曜日のみの開館であるが、我々のために特別に開館していただいた。

昼食は境内にある「朗峰会館」内の和食「花むら」。多田三夫君の乾杯により宴が開始され、それぞれ思いをふるさと静岡に馳せ歎談、旧交を温めた。昼食後は、毎年九月のこの一週間だけ開園となっている本門寺の奥庭として名勝の誉れ高い日本庭園「松濤園」へ。

この庭園は桂離宮の建築と造園で有名な小堀遠州(一五七九～一六四七)の作庭。池泉回遊式になつてゐる庭園内の景観を楽しみながら散策、流石の美しさに圧倒された。幕末の戊辰戦争の際、境内に新政府軍の本陣が置かれ、幕府の勝海舟が新政府軍の西郷隆盛をこの地に訪ね、庭園内のあすまやで江戸明け渡しの会見が行われたという記念碑がいまはなきあずまや跡に建つており、暫し幕末の往時を偲んだ。

十五時半ごろ散会となつたが、当日の名所旧跡の散策記録を写真とともに名文の故事来歴などを解説を添えて編集した小冊子「池上本門寺散策の葉」を作成、参加者全員に送付、意義深かつた今回の散策会を夫々が回顧し

た次第。(写真参照)
この「しおり」は、多田三夫君が以前に作成したものが引き継がれ、いまや散策会にはなくめに特別に作成したものになつてはならない付きものになつてゐる。

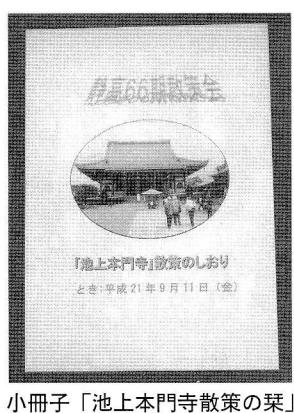
そもそもこの散策会は、現役の時代、夫々が忙しかったため、長年にわたり東京に住んでいながら東京を知らないという共通の意識が事の発端で、現役を卒業し、自由の身になつた面々が集まり、平成十五年十一月十日に第一回が行われ、以降年四回程度の頻度を経て今回で二十三回を迎えた次第。

これまで、場所の選定、昼食場所の決定などは聞き込みや下見による情報収集など、事前の準備に万全を期してきた。まだまだ行くところはたくさんあるので、皆の協力を得て更に充実した内容に心がけ継続していくたいと思つてゐる。

今まで散策したところは次の通り。
一、「拿捕・北朝鮮工作戦」(お台場)
二、「新宿御苑・絵画館・明治記念館(新宿・信濃町)
三、「神保町本屋街、ニコライ堂、湯島聖堂、神田明神(神田・御茶ノ水)
四、「芭蕉博物館、万年橋、清澄庭園、江戸深川資料館、富岡八幡宮(門前仲町・深川)
五、「横浜中華街、横浜グランドホテル「マッカサー元帥室」(横浜)

六、「多摩・武蔵野陵(大正・昭和天皇、貞明・香淳皇后)・高尾薬王院(八王子・高尾)
七、「柴又帝釈天、矢切の渡し(柴又)
八、「靖国神社(昇殿参拝)・遊就館、動物園、不忍池、旧岩崎邸(上野)
九、「千鳥が淵(九段)像(丸の内)
十、「国立科学博物館、恩賜上野公園、相撲博物館、江戸東京博物館、旧吉良邸・泉岳寺(両国・高輪)
十一、「都立葛西臨海水族館・同公園、横浜動物園(ズーラシア)・珍獣動物園(横浜・都筑区)
十二、「法記念館(永田町)
十三、「参議院・議場、天皇控え室(ガイドつき)、憲法記念館(永田町)
十四、「横浜動物園(ズーラシア)・珍獣動物園(横浜・都筑区)
十五、「浅草寺・六区街(ガイドつき)、隅田川下り(浅草)
十六、「上野寛永寺・輪王寺・東照宮・黒田記念館(ガイドつき)
十七、「谷中墓地、天王寺、淨明院、長屋住宅(ガイドつき)
十八、「川越・喜多院、旧川越城本丸、藏の町、菓子屋横丁(ガイドつき)
十九、「調布・神代植物公園(ガイドつき)、深大寺(調布市)
二十、「北鎌倉・円覚寺、建長寺(ガイドつき)
二十一、「鎌倉・鶴岡八幡宮(ガイドつき)

宮、大仏、長谷寺、稻村ガ崎古戦場(ガイドつき)
二十二、「芝増上寺、徳川靈廟、東京タワー、NHK放送博物館、愛宕神社(御成門・愛宕山)
二十三、「池上本門寺・墓地、五重塔、本殿、靈宝殿(大田区池上)



仲間の活躍

句文集の紹介

67期 小杉 弘

「無碍」大石柏人

8月

十九日

自宅

の

ポスト

を

覗く

と、

ゆう

メー

ル

が

入

っ

て

い

た

。差

出

人

は

同

期

の

大

石

柏

人

。封

を開

け

取

り

出

し

た

。大

石

脩

而

君

だ

た

。差

出

人

は

同

期

の

大

石

脩

而

君

だ

た

。差

出

人

は

同

期

の

大

石

脩

而

君

だ

た

。差

出

人

は

同

期

の

大

石

脩

而

君

だ

た

。差

出

人

は

同

期

の

大

石

脩

而

君

だ

た

。差

出

人

は

同

期

の

大

石

脩

而

君

だ

た

。差

出

人

は

同

期

の

大

石

脩

而

君

だ

た

。差

出

人

は

同

期

の

大

石

脩

而

君

だ

た

。差

出

人

は

同

期

の

大

石

脩

而

君

だ

た

。差

出

人

は

同

期

の

大

石

脩

而

君

だ

た

。差

出

人

は

同

期

の

大

石

脩

而

君

だ

た

。差

出

人

は

同

期

の

大

石

脩

而

君

だ

た

。差

出

人

は

同

期

の

大

石

脩

而

君

だ

た

。差

出

人

は

同

期

の

大

石

脩

而

君

だ

た

。差

出

人

は

同

期

の

大

石

脩

而

君

だ

た

。差

出

人

は

同

期

の

大

石

脩

而

君

だ

た

。差

出

人

は

同

期

の

大

石

脩

而

君

だ

た

。差

出

人

は

同

期

の

大

石

脩

而

君

だ

た

。差

出

人

は

同

期

の

大

石

脩

而

君

だ

た

。差

出

人

は

同

期

の

大

石

脩

而

君

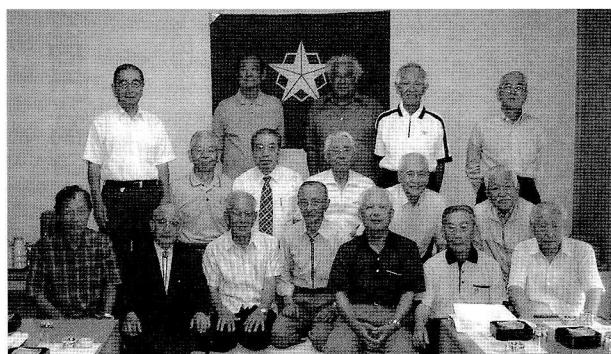
だ

葉には、ルビや説明が付記してある。また、五七五の十七文字と各ページの空白がよくマッチし、読みやすく心温まる思いを感じる。

纏められている。難しい字や言葉には、ルビや説明が付記してある。また、五七五の十七文字と各ページの空白がよくマッチし、読みやすく心温まる思いを感じる。

64期関東同期会 若い企業家にも 聞かせたかつた懐古談

64期 豊納 健蔵



静中・静高関東64期会は今年七月七日、十一時半から田町の「道灌かぢり」で開かれた。

この会は、昭和十八年に入学した者、途中戦災などで他校に転出した人、逆に転入した者も受け入れるという裾野の広い会。

昭和三十三年、故・名波倉四郎君などの肝入りで発足、以後連続して出席している人は、既に五十余回を数え、会の推移・雰囲気・同期生の動向等をつぶさに知っていると思う。

今年は、吉井駿亮君と、ほぼ毎年顔を出している女性、松島玲子さんの参加を得て二十名。私は特別の人を除いて顔と名前が合わず、お互いに名乗りあつて初めて「おうおう」と暖かい歓迎の声を挙げ、再会を喜び合った。

会は恒例の集合写真の撮影から、弔意を込めて物故者への哀悼の礼を悼み、以降は佐野旭君の明るいユーモア溢れる名司会、増田政雄君の乾杯の発声に始まり、個々の近況報告、静岡在住者の消息、高校野球の組合せ披露。はたまたメダカの育て方、佐野君のホールインワンの紹介などなど話は続いた。

そんな中、この会が素晴らしい会合として長く続けられてきたのは、多くの同期生の理解と協力のほか、時としては私費の支出もいとわず努めてくれた野

私は長い間ご無沙汰していたが、世話役の方から熱心な誘いを受け、昨年から出席させてもらっている。だから会の空氣や友人たちの動向等についての知識に乏しく、いわば新人。見・聞・感ともにみな新鮮で喜こぼしいこと、残念なこと、各々感慨多々であった。

今回不参加であつた人達への報告の意を込め、当日のあらましを申し述べたい。

今年は、静岡から石原良昭君、吉井駿亮君と、ほぼ毎年顔を出

から大変な努力・苦心を重ねたものの成果が得られず、時としてサラリーマンになって年々昇進し、生活も安定しつつある友人達を羨ましく思うことも多かつたと述懐。しかし苦境を乗り越えて頑張り続けた結果、三十三歳くらいから労苦が酬われはじめ、順次満足できる成果を收められるようになったと話した。

現在は事業を息子さんに引き継ぎ、世間様への感謝の気持ちを込めて、四国巡礼を行なっているとのこと。さらに子供さんから父親に感謝の念を綴った手紙が読まれたが、最後に「苦勞したよ」と実感のこもつた重い響きの一言があった。

この時は皆うなづきながら胸を熱くして耳を傾けた。

野沢君同様、起業で苦労され

た後、成功を認められた人も他にもいると思うが、この話は誠

が、世話役の方から熱心な誘いを受け、昨年から出席させてもらっている。だから会の空氣や友人たちの動向等についての知識に乏しく、いわば新人。見・聞・感ともにみな新鮮で喜こぼしいこと、残念なこと、各々感慨多々であった。

澤正憲君の好意が誠に大きいと皆が絶賛。多くの同期生より尽力に感謝したいと拍手が起こつていた。

現在も株富士越の会長をしている野沢君から、若い企業家にも聞かせたい創業当時の苦労・心労・気力などについて、低姿勢でかつ控え目ながら、多くの者の感動を呼んだ懐古談があり、再び拍手が贈られた。

彼の話を要約すると、創業時

に素晴らしい抨諷した。
お開きが近づいた二時過ぎ、アルコールも大分まわり、にぎやかな席に「やらまいか」の声。吉井君のリードで校歌「岳南健児」の齊唱。不思議なもので校歌のときは中学生の昔に戻り、背筋の伸びきった十八歳の青年の姿であった。そして鈴木明郎君の一本〆めでお開きとなつた。

同窓会からのお願い

関東同窓会は会員皆様の年会費で運営しております。1年間3000円です。同封の振込用紙で振り込んでください。

また年1回行われる総会の運行、実施は輪番制です。来年は88期になります。よろしくご協力ください。写真は今年担当期として活躍いただいた87期の面々。

▽リラックス散策のすすめ

最近の話題には健康の話が多い。具合の悪くなつたことが多いので、私が心掛けている手軽な健康法を披露しておく。

一、医者のみならず、健康に関心のある人が勧める最も手軽に出来る事は、毎日歩くことであるが、私が言いたいのは、

二、我々年配者は、医学書に決まっているように書かれている距離や時間や歩速にとらわれすぎず、ハードにならず、その日の体調と気分に合わせて気楽に行う。

三、公園、川辺りなどの散策が最も望ましく、時として立ち止まって休憩、花を愛で、鳥のさえずりに耳を傾け、リラ

クスして歩くこと。

樂しみながら歩くこと。この歳になつても学習することが多い。

拙毛は多摩川べりから五百メー

トルほどなので、ほぼ毎日一、四のような心構えで歩き、良い空気と気分を満喫しながらリラックス散策を続けている。





37回印高ゴルフ

清水 雅尚（77期）

関東の名門コース、しかも都心に一番近い川崎緑地公園ゴルフ場で行われている印高ゴルフ大会は1年半ぶり、十一月十日（火）開催した。

グリーンのほとんどが砲台、しっかりとオンさせないと奥のバンカーへ、さもなければ手前からごろごろ転がり降りてしまう難コース。

この時期としては絶好の快晴・無風のコンディション、優勝したのはベテラン清水照彦（61期）先輩。グロス101、ネット74・

64期ゴルフ
佐野 旭

大石康博（68期）、大石次男（61期）、荒谷じつ子（68期）、仁科光司（77期）、三浦位通（77期）、秋山好（82期）。

なおこのゴルフ大会は関東同窓会より一部贊助金をいただきています。次回以降は是非ご参加ください。

64期ゴルフ

佐野 旭

第49回合同ゴルフ会は、五十四日足柄森林ccで開催。参加者は十名。毎年春は四月に開催してきたが、過去2回雨天中止となつた前例を考慮して、五月に変更した幹事苦心の効あって、快晴に恵まれた一日だった。しかし、予想外の強風に見舞われ、

若干寒さを感じながらのラウンドとなつた。

優勝は時田勝博君、ネット84。幹役のプレッシャーにめげず3度目の優勝（うち2回が幹事役）。

準優勝は野澤正憲君。ネット88、大会名誉会長の名に相応しく、優勝4回（最多）、準優勝3回を誇る。31回大会からの参戦ですが、2回の優勝歴を持つ。準優勝は、当会発足当時からご協力いただいている61期の大石次男先輩、グロス103、ネット85の成績。過去優勝・準優勝各2回の実力を今回も見せてくれた。

3位は61期の清水照彦先輩。グロス96、ネット90でベスグロ、ニアピン賞も獲得。強風下でこのトン（失礼）で両賞とパーを4こ獲得できたことは見事。

そのほかのニアピンは大石次男先輩、伊藤剛君、そして佐野旭。体調不良ながらいつも当会を盛り上げてくれている伊藤君。残念にも二大会連続のブービー。だがニアピンに昔日の片鱗を見せていた。

前回優勝の村上喜代二君、ネット90で清水先輩と並ぶもハンディ差で一步譲る。

永田進一君は最終ホールでダブルスコアを叩いて7位。マレーシア帰りの漆畠茂君は前回50

Bで苦しんだホールはボギーで征服したが、全般に生氣なく8位。ダブルスコアホールを競うがごとき有様で、時田君優勝時にはメーカーか？ブービーか？のジンクスとなつた感あり。

準優勝は清水照彦先輩、グロス93、ネット88でまたベストゲロス賞。3位は時田勝博君、6並びでスタート、8番でパードをとったが、午後は「7並びスタート」、結果は前半・後半とも50のスコア。入賞はニアピン一個だけ。

その後ニアピンは小川哲司君と佐野旭。メーカーは漆畠茂君。「飛ばなくなつたし距離感はアワネーし、こんなに疲れたゴルフは始めて」とぼやきもできる。

四国八十八カ所の「お遍路参り」を見事結願、二日前に帰京したばかりで、現地の土産を持参して参加した野澤正憲君。疲れがとれぬ上、同伴競技者に恵まれなかつた？のか、恐らく初めてであろうブービーに終つた。

四国名産が賞品の表彰式のあとは、いつもの珍談、奇談の続出、平素は元気がなくともこの会でみんなから「笑いと元気」を貰い、来春の再会を約して家路についた。参加者は前記7名のほか大石次男先輩、村上喜代二、石原良昭、伊藤剛の諸君。

同期会の報告

83期のみなさんへ
おーい、お元気ですか。

とうとう還暦を超えたけど、前途はなお遠く、道は見通せるわけではない。やっぱ各自自立して生きていこう、お互いがんばろう！と、このような冒頭となりました。

日曜日の夜ながら、83期同期の皆さんのが会を盛り上げようと、家族・友人を伴って六十名余り、東京からも参加してくれ、おかげで会場は大盛況となつた。病のあと、からだが不自由となつてゐる増田裕君もカイロのお弟子さんと一緒に来てくれたし、来れなかつた二人（仕事で兼子君、孫の病気で杉山君）か

原稿募集

会報は十二月と六月の2回
刊行しております。同期、同
窓生の動静を事務局宛てお寄
せください。

是非ご覧ください

皆様、急に寒くなりましたが、
お元気でいらっしゃることと存

援団長小杉敏（こすぎさとし）君の初CDを記念した凱旋Jazzコンサートが行われた。クワルテットのリーダーがベーシストの小杉君で、「日本界有数のベーシスト」となった彼とそのチームが、アメリカンジャズをテンポ良く私たちにぶつけてくれた。

九月二十七日（日）十八時半
から二十二時まで、静岡市浮月
楼の一角に出現したJazzラ
イブスポット「Life Ti

この度、共著ですが平凡社の別冊太陽の「100人の心に響いた絵本100」というムック本が発刊されました。執筆者は俵万智、谷川俊太郎柳田邦男、久保純子、山口豊（画家）、鈴木光司ら100人です。私は130ページに書いております。

静岡本部で同窓会総会 月二十三日、静岡駅南口にあるホ
テルで本部の同窓会総会が開催された。会のお手伝いと仕切り役の今年の幹事は88期生。関東支部からは清水汪会長はじめ浦田、野方、久野副会長が出席した。

静岡便り

その後会場を移し懇親会。「校歌を4番まで」歌いスタート。さらに各期の応援指導部の指導により、応援歌、逍遙歌などつぎつぎ歌い込んでいった。

野球部
「静かに暖かく見
守ってください」

美術館、オフィス、
宴会場などが入る

編集後記

「それなくとも青岡は高層ビルがなかつたので楽しみにしている」と同窓生。竣工が待ち遠しい。

が入ってくる。何でもいいから学校へ来いとの指令。山梨県の学校とオープン戦の最中。バッケネット裏には素人評論家が100人近く。一投一打にやんやの喝采。そんな応援者とは離れ、中堅手後方から冷静にそして心配そうに試合を見守る人がいた。野球部OB会長の栗田重徳氏（83期）。

「監督ももちろん選手も真剣に練習しています。このような時もありますから、暖かく見守ってください」と言うが、もう6

◇このたびは多くの同窓生からたくさんのお問い合わせを頂きました。お陰さまでこの号で掲載できなかつたもの、一部割愛させていただいたものもあります。ご了承いただきたくお願ひします。

◇4ページに掲載しました66期、馬渢逸明さんの「名所散策会」非常に興味深く読ませていただきました。今後数回連載していただきますのでご期待ください。

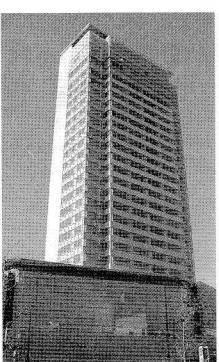
（77期・村松貴彦）

た。野球部OB会長の栗田重第氏（83期）。「監督ももちろん選手も真剣に練習しています。このよう時もありますから、暖かく見守ってください」と言うが、もう一つ年甲子園にご無沙汰、是非にきたいものだ。

葵タワーももなく竣工

静岡駅北口、旧日興證券ビル
後に建築中の高層ビル「葵タワー」
が平成二十二年三月完成する

タワーは高さ約125メートル、地上25階、地下2階で、店舗



鈴与株式会社

取締役社長 鈴木与平 (76期)

〒424-8703 静岡市清水区入船町11-1
TEL 054 (354) 3015 (秘書室)

京浜支店 〒140-0013 東京都品川区南大井6-25-3
ビリーヴ大森5F
TEL 03 (6404) 2100

日本レーベル印刷株式会社

代表取締役会長 岩井平一郎 (57期)

本社 〒422-8004 静岡市駿河区国吉田3丁目1番1号
TEL 054 (262) 1111(代)

東京支社 〒104-0031 中央区京橋1-1-6 越前屋ビル8F
TEL 03 (3272) 4651 (代)

株式会社 富士越化成

代表取締役会長 野澤正憲 (64期)

〒140-0004 東京都品川区南品川2-17-11
TEL 03 (5783) 3841
FAX 03 (5783) 3755

お茶の心を伝える 愛国製茶

代表取締役会長 馬場泰男 (64期)

本社 東京都新宿区西早稲田3-7-9 TEL 03-3207-1611(代表)
高田馬場店 東京都新宿区高田馬場4-12-7 TEL 03-3363-6611(代表)

東京無線タクシーグループ 公和自動車交通株式会社

〒162-0813 東京都新宿区東五軒町3-3 ☎03-3269-3281

都心のオアシス・ゴルフ練習場

(株)公和ゴルフセンター

大江戸線・若松河田駅隣り ☎03-3202-6558

代表取締役 山中博司 (73期)

自動車・火災・傷害保険

(株)大高保険事務所

代表取締役 清水雅尚 (77期)

〒150-0011 東京都渋谷区東3-15-8
TEL 03 (3406) 9350
携帯 090-7800-3767

同窓会で人の輪を!!

野方重人法律事務所

弁護士 野方重人 (77期)

〒101-0045 千代田区神田鍛冶町3-7-3
蔵下ビル6F
(TEL) 03 (3251) 2348
(FAX) 03 (3257) 0820

昼2時より夜11時まで診療

タカラ歯科診療所

代表 藟名雄 (87期)

東横線 中目黒下車 徒歩5分
TEL 0120-376-480
FAX 03-3710-8847
〒153-0051 目黒区上目黒2-18-13

相続税・法人税・所得税などのご相談はどうぞ!

鳥巣修税理士事務所

税理士 鳥巣修 (89期)

OSAMU TOSU

〒167-0041 東京都杉並区善福寺1-30-17
TEL 03(3396)3858 FAX 03(3396)3848
E-mail : tosu@mtj.biglobe.ne.jp

調剤薬局……関東・東海・関西中心に135店舗

株式会社 アイセイ薬局

健康と幸せを願って

代表取締役 岡村幸彦 (93期、応援指導部)

〒103-0014 東京都中央区日本橋蛎殻町2-14-5
TEL 03 (5651) 7200
<http://www.aisei.co.jp>